



きたまち



わたしたちは
北海道の
暮らしたいまち
オンリーワンづくり
を目指します

一般社団法人 北海道まちづくり協議会
2018年度 活動報告書

一般社団法人 北海道まちづくり協議会

2018年度活動報告書 (2018.4.1～2019.3.31)

ごあいさつ | 01

主な年間活動 | 02

- 主な年間活動 | 02
- 平成30年度 第1回通常総会 | 04

まちづくり支援事業（実践活動研究会） | 05

- 1号研究会 ● マンション建替え支援研究会 | 05
 - 地域マネジメント研究会 | 05
 - 再開発マニュアル研究会 | 06
- 2号研究会 ● 小樽駅前地区整備支援研究会 | 07
 - 駅前周辺まちづくり支援研究会 | 08
 - 地下鉄駅周辺再開発支援研究会 | 08
 - 地下連絡通路利活用検討研究会 | 09
 - まちづくりシンポジウム～小樽駅前地区に市民は何を求めるのか～ | 10

交流研修事業 | 11

- まちづくり研修会～地方都市のまちの中心を考える～ | 11
- 第2回会員交流研修会～北6東6周辺地区第一種市街地再開発事業 現地見学会 | 13
- 第3回会員交流研修会～さっぽろ創世スクエア視察会～ | 14
- 平成31年 新年交礼会 | 15

情報広報関連事業 | 16

- 北まちブログ連載企画 Part3 THE 座談会～まちのリノベーションについてかんがえる～ | 16

組織・役員 | 17

- 組織図、役員、事業部会長 | 17

会員一覧 | 18

- 法人正会員 | 18
- 個人正会員、賛助会員、特別会員 | 19

● ご覧になりたい項目をクリックするとページに移動します



一般社団法人 北海道まちづくり協議会
会長 能戸 裕之

「まちの中心のあるべき姿を考える」

近年、北海道の各地において、まちの顔として、また地域住民の拠り所として形成されてきた「まちの中心」がモータリゼーションの進展や鉄道の廃線等様々な要因によって衰退しつつあることを踏まえ、昨年度より「まちの中心のあるべき姿を考える」をテーマに掲げ、今後のまちづくりはどうあるべきなのか、部会、研究会において活動を進めてきたところであり、ある程度の知見を得ることができました。

今年度は、引き続き同じテーマとして、さらに具体的な状況や課題を把握し、今後の対応方策の検討をすべき活動を行って参りました。

この報告書は、2018年度の活動内容をまとめたものでございます。皆様には、ご一読いただき、今後ともなお一層、当協議会へのご理解とご協力いただけますようお願い申し上げます。

組織運営			
総 会	第1回 通常総会	5月22日	会場: かでる2.7・1060号室
理 事 会	第1回 理 事 会	5月7日	会場: かでる2.7・110号室
	臨 時 理 事 会	5月22日	会場: かでる2.7・1020号室
	第2回 理 事 会	10月31日	会場: 緑苑ビル 201号室
	第3回 理 事 会	2019年3月28日	会場: 緑苑ビル 201号室
理事会の 電磁的決議 (定款第34条 第2項に基づ く)	決 定 日 (1)	5月21日	入会承認
	決 定 日 (2)	9月14日	実践活動研究会(地下鉄駅周辺再開発支援研究会)
	決 定 日 (3)	11月20日	入会承認
	決 定 日 (4)	11月30日	実践活動研究会(JR 琴似周辺地区まちづくり支援研究会)
	決 定 日 (5)	1月10日	実践活動研究会(地下通路利用検討研究会)
	決 定 日 (6)	1月10日	入会承認
	決 定 日 (7)	2019年3月12日	八軒一条西地区受託に伴う 作業委託、業務責任者委嘱
業 務 執 行 理 事 会	第 1 回	4月27日	会場: 協議会事務所
	第 2 回	6月20日	会場: 協議会事務所
	第 3 回	10月15日	会場: 協議会事務所
	第 4 回	2019年3月19日	会場: 協議会事務所
専 門 部 会 連 絡 会 議	第 1 回	5月11日	会場: 協議会事務所
	第 2 回	2019年1月16日	会場: 協議会事務所
	第 3 回	2019年2月26日	会場: ソフトスケープ

他団体会議への出席		
北海道建築設計会議	7回出席/10回開催	会場: 緑苑ビル201号室

後援事業	
日本マンション学会 2018北海道大会 主催: 一般社団法人 日本マンション学会	5月18日～5月20日 会場: 北海道大学札幌キャンパス

講師派遣事業		
(1) 一般社団法人 北海道ビルディング協会の10月例会に講師派遣 テーマ: 再開発事業の事例について (講師: 会長 能戸裕之)		10月30日
(2) 北海学園大学工学部建築学科 講義名称: 都市計画 テーマ: 現行制度とその特性2/ 都市再開発事業と建築 (講師: 常務理事 武井秀爾)		11月5日
(3) 藤女子大学人間生活学科 講義名称: 居住環境デザイン テーマ: まちを再生する/ 都市再開発事業の仕組みと特徴 (講師: 常務理事 武井秀爾)		12月7日

相談事業	
札幌市都心まちづくり政策局都市計画部事業推進課経由で某地下鉄駅周辺における市街地再開発事業についての相談があり、受託事業として対応すべく2号研究会が設立された。	《実施期間》 4月4日～7月5日

受託事業	
八軒一条西2・3丁目周辺地区まちづくりビジョン・パンフレット作成業務	【実施主体】 JR 琴似駅周辺地区まちづくり支援研究会

その他事業		
学生支援	北海学園大学工学部の3年生を対象とし、「都市計画(市町村)」「都市計画・開発」「施工」の各分野から3名が登壇し建築に関わる社会人の職業体験談を提供する「技術者車座トーク」を実施。	1月11日

● 主な年間活動

まちづくり支援事業	担当常務理事:高森篤志	担当部会長:中山祐二
-----------	-------------	------------

まちづくり支援事業部会開催状況		
事業部会ミーティング	今年度活動の内容と進め方	11月2日

実践活動研究会	
研究会名	活動内容
マンション建替え支援研究会(一号)	研究会ミーティング:1回
地域マネジメント研究会(一号)	研究会ミーティング:1回
再開発マニュアル研究会(一号)	研究会ミーティング:1回
小樽駅前地区整備支援研究会(二号)	研究会ミーティング:4回 コア会議:5回 まちづくりシンポジウム(小樽市):1回
駅周辺まちづくり支援研究会(二号)	意見交換会:2回
地下鉄駅周辺再開発支援研究会(二号)	研究会ミーティング:2回
JR 琴似駅周辺地区まちづくり支援研究会(二号)	研究会ミーティング:4回 コア会議:2回
地下連絡通路活用検討研究会(二号)	研究会ミーティング:3回 現地視察:1回 会議:3回

交流研修事業	担当常務理事:高森篤志	担当部会長:内山靖久
--------	-------------	------------

事業実施状況				
事業名		開催日	会場	参加者数
一般社団法人 再開発コーディネーター協会との意見交換会		7月6日	201会議室	16名
第1回会員情報交流会	4・6再開発事業 見学会	10月11日	現 地	30名
第2回会員情報交流会	創世1.1.1区 施設見学会	11月8日	現 地	33名
平成30年度まちづくり研修会	地方都市のまちの中心を考える	11月13日	北海道経済センタービル 8F・Bホール	75名
新年交礼会		2019年2月1日	中村屋旅館	42名

交流研修事業部会開催状況	
会議名	内 容
交流部会会議	年度事業概要の打合、年度予算報告及び総会、まち研打合せ:6回
まち研実行委員会	まち研実施詳細打ち合わせ:1回

情報広報関連事業	担当常務理事:高森篤志	担当部会長:押野和也
----------	-------------	------------

事業実施状況	
事業名	内 容
ホームページ、メールマガジン及び各種広報物による情報発信 広報活動の実施	
◦ホームページ	活動ブログの随時更新
◦メールインフォメーション	会員に向けた情報発信
平成29年度年間活動報告書作成	平成29年度の協議会活動について作成

情報広報関連部会開催状況	
会議名	内 容
情報広報部会会議	情報発信、広報活動の実施についてミーティング及びメール会議を実施

平成30年度 第1回通常総会

2018年5月22日 会場：かでの2.7・1060研修室

平成30年5月22日(火) 17時30分より、かでの2.7において、「平成30年度第1回通常総会」を開催しました。出席者35名、委任状出席21名の方にご出席いただきました。

総会の議案は、第1号議案「平成29年度事業報告及び収支決算報告」および第2号議案「理事及び監事選任」の2件で、総会参加者から承認を得られました。

総会終了後は中村屋旅館に会場を移し、新しく会員になられた方々を交え47名の出席者により、懇親会が開催され、和気あいの雰囲気の中で会員どうしの交流を深めました。



能戸会長ごあいさつ



西尾前理事による乾杯のご発声



渡辺新理事ごあいさつ



横山新監事ごあいさつ

マンション建替え支援研究会(一号研究会)

概要

活動内容	近い将来、大きな社会問題になると予想されている「マンション建替え」について、(一社)再開発コーディネーター協会のマンション建替え専門グループと一緒に、技術向上のための事例研究や情報収集を行い、マンション建替えの推進普及に努めるとともに、支援を希望する管理組合に建替えプログラムの現地指導やマンション建替え実施のコンサルティング参加も視野に入れた活動をする。
代表	武井 秀爾
メンバー	大石 章夫、内山 靖久、岡本 浩一、押野 和也、葛西 政一、菅野 克、北川 好和、久新 信一郎、後藤 健夫、佐藤 市郎、八田 真勝、濱谷 雅弘、深澤 彰一、本間 寿幸、横山 幹人、吉田 潔
主たる活動場所	札幌市内のマンション管理組合を中心
活動期間	平成30年4月から1年間、活動状況によって更新

活動状況

	活動	概要	開催日	会場	参加数
1	第1回ミーティング	・Rビルマンション建替え現状認識調査結果 ・コーディ協マンション建替え支援事業委員会の活動状況	1月15日	緑苑ビル201号室	12名

活動について

- ・平成30年度は、活動が停滞し会議体が1回のみであった。
- ・19年度は、マンション事例研究を中心に、メンバー間の親睦を深め情報交換できる場作りを行う。

地域マネジメント研究会(一号研究会)

概要

活動内容	今年度の協議会の活動テーマを絡め、平成26度からの継続的な取り組みである”地域マネジメント”として、”地域の現状と課題を知る”取組と共に、”その対応に向けた検討”への、素案検討を行うことを目的とする。
代表	中山 祐二
メンバー	川尻 雅裕、高森 篤志、武井 秀爾、辻井 順、寺内 知生、能戸 裕之、山口 重則
主たる活動場所	協議会事務局
活動期間	平成30年4月から1年間、活動状況によって更新

活動状況

	活動	概要	開催日	会場	参加数
1	第1回ミーティング	今年度活動の内容と進め方	11月2日	(株)ソフトスケープ	2名

活動について

- ・JR線の廃止が検討されている自治体における、対象都市に関して収集した地価推移や既存計画等の資料編纂について協議を行った。

再開発マニュアル研究会(一号研究会)

概要

活動目的 内 容	会員向け、再開発検討地区団体等向けの再開発事業推進のためのマニュアル作成
代 表	能戸裕之
メンバー	石塚 雅弘、川瀬 浩、川尻 雅裕、久新 信一郎、坂本 行宏、武井 秀爾、横山 幹人、山口 重則
主 たる 活動場所	協議会事務室又は201会議室
活動期間	平成30年4月から1年間、活動状況によって更新

活動状況

	活 動	概 要	開催日	会 場	参加数
1	第1回ミーティング	次年度活動の内容と進め方	2月18日	北まち事務所	9名

活動について

- ・今年度は、目標に掲げていた「マニュアル本編」の原稿編集に着手できず、活動が停滞してしまいました。その反省を踏まえ、意見交換の中で次年度は「本編」の編集ではなく、ハンドブックとして活用できるようなものとして、新たに「ダイジェスト版2」を作成することとし、その概要について討議した。
- ・また、新規メンバーを加え活動を活発化することを確認した。

小樽駅前地区整備支援研究会(二号研究会)

活動目的 内 容	小樽駅前再開発事業(駅前再開発)により建築された小樽駅前ビルは完成後39年を経過し、5月の耐震診断結果を待って建物更新の計画づくりが求められている。また、同じ駅前再開発により整備された駅前広場も15年後の北海道新幹線の開通に合わせた機能の見直しが必要となっている。 しかし、地元協議会が結成されているが活動が鈍いため、駅前再開発後のビル管理を担うために設立された小樽駅前ビル(株)(まちづくり会社)としては、この課題に対する議論の活発化に寄与したいという思いで、当協議会に賛助会員として入会し協力を求めてきた。 このことから、本研究会では小樽駅前ビル(株)に協力し、小樽駅前地区の将来像の検討の場づくりや小樽駅前ビルの建物更新計画の作成の支援を行う。
代 表	大石章夫
メンバー	市橋佳樹、内山靖久、生沼貴史、大友佑介、大場眞一、岡本浩一、尾作尚樹、加賀谷勉、川尻雅裕、久新信一郎、沓澤和重、後藤健夫、武井秀爾、前田康司、中山祐二、成田靖彦、能戸裕之、深澤照一、本居功光、森 哲子
主たる 活動場所	小樽駅前地区
活動期間	平成30年4月から平成32年3月までの概ね2年間(活動状況によって延長)

活動状況

	活 動	概 要	開催日	会 場	参加数
1	準備組合第1回理事会	H29年度事業報告	4月6日	小樽駅前ビル会議室	2名
2	第1回コア会議	シンポジウム開催について	4月6日	小樽駅前ビル会議室	7名
3	第1回ミーティング	H30年度活動内容と進め方	5月17日	小樽駅前ビル会議室	15名
4	第2回コア会議	シンポジウム開催について	5月31日	小樽駅前ビル会議室	14名
5	第2回ミーティング	シンポジウム開催について	6月29日	緑苑ビル201号室	7名
6	第3回コア会議	シンポジウム開催について	7月11日	小樽駅前ビル会議室	4名
7	第4回コア会議	シンポジウム開催について	7月19日	小樽駅前ビル会議室	10名
8	第5回コア会議	シンポジウム開催について	8月23日	あ い よ	6名
9	準備組合第2回理事会	シンポジウム開催について	9月13日	小樽駅前ビル会議室	2名
10	第3回ミーティング	シンポジウム開催準備	10月15日	小樽駅前ビル会議室	16名
11	第4回ミーティング	シンポジウム開催準備	11月15日	緑苑ビル201号室	14名
12	まちづくりシンポジウム	シンポジウム開催	12月1日	小樽経済センター	約150名

活動について

平成30年度は、地元の活動拠点となる再開発準備組合が、市民への活動普及を目的に地元シンポジウムを開催し、当研究会も開催事務方として運営に協力するとともに、駅前整備の研究成果発表を行い、予想を超える150名以上の参加により盛況となり、当初の目的を果たすことができた。



地元のまちづくりシンポジウム開催の様子

駅前周辺まちづくり支援研究会(二号研究会)

概要

活動目的 内 容	駅前地区の将来像の検討や周辺の土地利用構想など、駅前まちづくり議論の起点となるための勉強会や検討会の開催等について支援する。
代 表	能戸裕之
メンバー	大場 眞一、加賀谷 均、内山 靖久、押野 和也、武井 秀爾
主たる 活動場所	苫小牧市
活動期間	平成30年4月から1年間、活動状況によって更新

活動状況

	活 動	概 要	開催日	会 場	参加数
1	意見交換会	・駅前周辺の現状、動向について	4月23日	苫小牧市役所	4名
2	意見交換会	・駅前周辺の現状、動向について	1月21日	苫小牧市役所	4名

活動について

- ・苫小牧駅前地区の現状と今後の動向に関して、苫小牧市職員と意見交換を行った。

地下鉄駅周辺再開発支援研究会(二号研究会)

概要

活動目的 内 容	・地元権利者の意向を踏まえ、施設ボリュームや事業収支など事業の可能性検討を行う。 ・行政とは、再開発事業の内容、地区計画などの都市計画に係わる内容について協議を行う。
代 表	武井秀爾
メンバー	大石 章夫、押野 和也、加賀谷 均、川尻 雅裕、中山 祐二、能戸 裕之
主たる 活動場所	札幌市内地下鉄駅周辺
活動期間	平成30年4月から1年間、活動状況によって更新

活動状況

	活 動	概 要	開催日	会 場	参加数
1	第1回研究会	設立主旨の共有と仕様書の協議	7月17日	北まち事務所	5名
2	第2回研究会	相手方との打合せ結果報告	8月30日	北まち事務所	5名

活動について

- ・依頼のあった地元や札幌市との意見交換を行った。
- ・他団体から研究会を通して講師依頼があり、当協議会として再開発事業についての講演をメンバーが行った。
- ・今後は、地元からの要請に応じて活動を行う。

地下連絡通路利活用検討研究会(二号研究会)

概 要

活動目的 内 容	地下鉄駅の連絡通路について、利用者の利便性向上と事業者の収益獲得を目的に、空間の利活用方法や事業化に向けたスキームなどの技術を習得する。
代 表	川尻 雅裕
メンバー	高森 篤志、瀧田 展明、岡本 浩一
主 たる 活動場所	札幌市交通局が管理する地下連絡通路
活動期間	平成30年4月から1年間、活動状況によって更新

活動状況

	活 動	概 要	開催日	会 場	参加数
1	第 1 回 会 議	支援方針の協議	5 月 1 8 日	札 幌 市 交 通 局	6名
2	第 1 回 内 部 ミ ー テ ィ ン グ	第1回会議報告、活動方針の検討	6 月 1 1 日	(株)ソフトスケープ	4名
3	現 地 視 察 会 兼 第 2 回 会 議	連絡通路の現地視察ほか	7 月 1 0 日	連 絡 通 路	8名
4	第 2 回 内 部 ミ ー テ ィ ン グ	提案内容の検討	7 月 2 5 日	(株)ソフトスケープ	4名
5	第 3 回 内 部 ミ ー テ ィ ン グ	第3回会議の事前準備	9 月 2 7 日	(株)ソフトスケープ	3名
6	第 3 回 会 議	イベント案の説明と検討	1 1 月 8 日	札 幌 市 交 通 局	8名

活動について

- ・札幌市交通局との意見交換を通して、市の課題を整理し、活動方針を検討した。
- ・現地視察を踏まえ、歩いて楽しい空間づくり及び通路以外の新たな使い方をコンセプトに、研究会及び交通局職員双方のアイデアを募って、活動イベント案を検討した。
- ・札幌市10区の連携事業を、試験的イベントの有力候補として決定した。

まちづくりシンポジウム～小樽駅前地区に市民は何を求めるのか～

日 時 2018年12月1日(土) 13:30～17:00
 場 所 小樽経済センター 7F 大ホール
 主 催 小樽駅前第1ビル周辺地区再開発準備組合
 共 催 小樽商工会議所
 後 援 (一社)北海道まちづくり協議会
 まちづくり会社小樽駅前ビル(株)
 参加者 150名

第1部 基調講演「再開発事業における行政と民間の役割」
 まちづくり福井株式会社代表取締役 岩崎正夫氏

第2部 小樽商科大学大津ゼミ学生による 市民アンケート分析
 ・(一社)北海道まちづくり協議会
 小樽駅前地区整備支援研究会報告

第3部 フリーディスカッション

パネリスト 岩崎正夫氏(まちづくり会社小樽駅前ビル(株)代表取締役)
 大津 晶氏(小樽商科大学准教授)
 平松正人氏(小樽商工会議所副会頭)
 浅村公二氏(小樽駅前第1ビル周辺地区再開発準備組合理事長)
 ファシリテーター 森 哲子氏((一社)北海道まちづくり協議会顧問)

2018年12月1日(土)、小樽経済センター7F 大ホールにおいて、小樽駅前第1ビル周辺地区再開発準備組合主催による小樽市民を対象としたシンポジウムが開催されました。当協議会では、平成27年度にスタートした小樽駅前地区整備支援研究会が小樽駅前地区の事業化に向けた支援を行ってきており、このシンポジウムには後援という立場で参画しました。当初、定員100名の予定でしたが150名が集まり、会場を4階から7階の大ホールに変更するなど、駅前再開発に対する市民の強い関心が伺われました。



第1部は、まちづくり福井株式会社代表取締役の岩崎氏による「再開発事業における行政と民間の役割」と題する基調講演を頂きました。まちづくり福井株式会社は、2016年に福井駅西口にオープンした市街地再開発ビル「ハピリン」における屋根付き広場の指定管理者として運営に携わっているほか、駅周辺の再開発+リノベーションに向けた「エリアマネジメント協議議会」の立ち上げ・運営を行っており、ハピリンの集客をまちに広げる取組や、住民との連携などにご尽力されています。2023年の北陸新幹線福井開通・開業が予定されていることから、これからの福井駅周辺に注目です。

第2部は、小樽商科大学大津ゼミの学生による市民アンケートの結果報告と、当協議会の研究会メンバーの川尻氏から活動報告がありました。市民アンケートでは、小樽駅前地区の現状における満足度と重要度の相関関係の報告、駅前地区の整備イメージにおける年代別の嗜好、高校生ワークショップの結果概要を発表頂きました。小樽駅前地区整備支援研究会活動報告は、現況分析や整備イメージ提案など、これまでの取組成果を報告しました。

第3部フリーディスカッションでは、協議会の森氏がファシリテーターを務め、岩崎氏、大津准教授、平松小樽商工会議所副会頭、主催者から浅村氏の4名による討論が行われ、「人口減少・少子高齢化に対応した駅周辺整備に向け、地域・行政・経済団体の連携に加え、市民団体をどう参加させていくかがこれからの課題」、「観光客・市民が安心安全に利用できる駅前空間づくりが大事」、「小樽の資源である『海』と『歴史』をカネにできる仕組みづくりが必要」などの意見が交わされました。その後、会場から寄せられた質問から5件を採用し、各パネラーに回答を頂き、定刻の17時に閉会しました。



レポート: まちづくり支援事業部会長
 (株)シン技術コンサル 中山 祐二

まちづくり研修会

- 1 -

日 時	2018年11月13日(火) 13:30～16:50	会 場	北海道経済センター 8F Bホール
主 催	(一社)北海道まちづくり協議会	参加者	75名
基 調 講 演 「北海道における立地適正化計画とまちづくり」 篠宮章浩氏 国土交通省北海道開発局事業振興部都市住宅課課長			
施 策・事 例 紹 介	○ 中心市街地に新たなにぎわいを～都市再生タスクフォースによる取り組み 遠軽町総務部地域拠点施設整備室参事 今井昌幸氏		
	○ 人口減少社会の再開発の方向性についてのケーススタディ 一般社団法人再開発コーディネーター協会調査研究委員会委員長の影山浩氏		
ディスカッ シ ョ ン	パネリスト	篠宮章浩氏 (国土交通省北海道開発局事業振興部都市住宅課課長)	
		今井昌幸氏 (遠軽町総務部地域拠点施設整備室参事)	
		影山 浩氏 (一般社団法人再開発コーディネーター協会調査研究委員会委員長)	
	コーディネーター	石塚雅弘氏 (株式会社ドーコン都市・地域事業本部総合計画部参与)	

平成30年11月13日(火)、北海道経済センター8階にて平成30年度まちづくり研修会が総勢75名様のご参加をいただき開催されました。

基調講演は、国土交通省北海道開発局事業振興部都市住宅課課長の篠宮章浩氏から、「北海道における立地適正化計画とまちづくり」というテーマでご講演頂きました。前半は、「都市の現状と課題」の分析、国土交通省が推進する『コンパクト・プラス・ネットワークの推進』についての具体的な施策、「北海道の現状と北海道総合開発計画」及び「立地適正化計画の制度と都市のスポンジ化対策」について概括的にお話頂きました。5万人クラスの小規模地方都市では人口減少と高齢化が著しく、コンパクトシティ化に取り組むことによって、生活サービスの維持や行政コストの縮減と固定資産税の維持を図ることが急務であるとのことでした。コンパクトシティ化推進は郊外を切り捨て、人々に住まいや働き場所の移転を強制するものではなく、「これ以上の新たな市街地拡大はしない」という合意形成からはじめて、緩やかな規制と誘導策で、時間をかけて都市の構造を変えていくものであることも強調されました。また、コンパクトシティ化を推進するにあたって低未利用の空間が相当程度発生するという「都市のスポンジ化」の対応も検討する必要があります。「立地適正化計画」の上手な活用を勧められました。北海道でコンパクトシティ化を推進するにあたって、北海道の強みである食・観光・エネルギー等の「生産空間」を支えるまちづくりを目指すべきであると強調されました。後半は、『コンパクトシティの推進等に係る支援事業と整備事例』として、名寄市、恵庭市、釧路市、稚内市の取り組み事例紹介がありました。具体的には、名寄市は中心市街地の活性化を目的とした交通結節点

に複合機能を導入した拠点整備の事例。恵庭市は複合機能を導入した再開発と区画整理の一体的整備による交通結節機能の強化と拠点の事例。釧路市は都市の中心拠点において民間施設を賃借して拠点施設を整備した事例。稚内市は鉄道駅と隣接する複合施設を再開発等により一体的に整備した事例の紹介がありました。



施策・事例紹介1つ目は、遠軽町総務部地域拠点施設整備室参事の今井昌幸氏から「中心市街地に新たなにぎわいを～都市再生タスクフォースによる取り組み」という演題で、遠軽町における取り組みの紹介がありました。遠軽町の課題の分析し、若手職員が中心となって都市再生整備計画の策定へ進め、具体的な計画として、芸術文化活動の拠点施設整備の要望や老朽化した公共施設の建て替え(仮称) えんがる町民センターの建設、JR 石北線の維持・存続のため鉄道広場の整備等が決定されたことが紹介されました。

施策・事例紹介2つ目は、一般社団法人再開発コーディネーター協会調査研究委員会委員長の影山浩氏から、「人口減少社会の再開発の方向性についてのケーススタディ」という演題で、これまで10年以上にわたって

まちづくり研修会

-2-

関わってきた再開発事業の調査研究活動の経験を踏まえ、高齢者福祉施設等の導入について実施したアンケート結果の紹介や、具体的な事例ヒアリング結果を紹介頂きました。高齢者福祉施設等を整備することで結果的に商業床の面積が少なくなり賑わいの創出効果が薄くなるとの懸念も示される一方で、人口減少社会・少子高齢化社会における「持続可能な都市構造」への転換における都市機能の集積手法として一定の評価も得られているとのことでした。また、具体的な事例ヒアリングとして、恵庭市西口地区、稚内駅前地区、多賀城駅北地区(宮城県)、大曲通町地区(秋田県)、柳ヶ瀬通北地区(岐阜県)、岐阜駅西地区、三田駅前 Bブロック(兵庫県)、栄・常磐地区(長崎県)での調査結果の報告がありました。

ディスカッションは、3名の講師をパネリストに、(株)ドーコン都市・地域事業本部総合計画部参与の石塚雅弘氏をコーディネーターとして実施されました。



石塚氏から、①街の中心拠点に求められる機能 ②中心拠点の整備にあたっての資金調達・事業計画の進め方 ③拠点形成にあたって合意形成の進め方 ④中心拠点を作った後にどのようにして維持継続させていくのか、の4つの論点に整理し、各パネリストから意見をいただく形で進められました。

①街の中心拠点に求められる機能～影山氏からは、地域の課題をしっかりとらえて課題を解決する方向で検討することが有益である。今井氏からは、郊外施設との競合の可能性も考慮して計画を立てる必要があることなどの合併市町村ならではの検討課題が紹介されました。篠宮氏からは、北海道では広大な生産空間の拠点であるとの発想で中心拠点の機能を考える必要があり、産地直売所の整備等地域の産物を上手く情報発信することが提案されました。

②中心拠点の整備にあたっての資金調達・事業計画の進め方～今井氏から、利用できる様々な補助金を検討することの重要性。また、事業リスクを軽減するため

に立地適正化計画を作る手法の検討、地方創成事業の活用等があげられた。

③拠点形成にあたって合意形成の進め方～今井氏から、HPでのパブリックコメント閲覧。関係団体に対する説明会。出前講座の実施。また、地元主催のワークショップで地域の課題を地域みんなで解決するという発想で進めていくことの重要性が示されました。

④中心拠点を作った後にどのようにして維持継続させていくのか～今井氏からは指定管理者方式を行い民間の活力を導入していること、篠宮氏からは行政の方で5年に一度計画を見直していること、影山氏からはテナントが退去したことで管理運営に支障をきたした事例の紹介がありました。

最後に各氏から総括の意見を頂き、今井氏からは、中心市街地で吹奏楽の音色が聞こえるような街にしたいとの抱負が語られ、影山氏からは、地方都市の再開発はストック活用がまず検討されるべき、民間のやる気のある人の考えを行政が支援する形が望ましいとの提案がありました。篠宮氏からは、背景には生産空間があり拠点が失われると生産空間も衰退するので、生産空間を支えるまちづくりの重要性が改めて強調されました。



研修会の最後に岡本浩一副会長から閉会の挨拶がありました。岡本副会長からは、コンパクトシティ化推進の一方で自動運転を活用したまちづくりの方向性についての問題提起もありました。

まちづくり制度についての概括的な説明のみならず、具体的な事例紹介、及び各講演者からの意見に至ること、様々な制度について具体的な活用方法を理解することができ、地方都市の中心拠点作りの実務に携わる上での実践的な知識を身に付けることができました。今後とも同様の研修会があれば是非参加したいと思います。また、制度設計や合意形成にあたって、法律家の関与の必要性も実感いたしました。今後、法律家としてまちづくりに関する情報発信も積極的に行っていきたいと思っています。

レポート：札幌英和法律事務所 弁護士 田中 康道

平成30年度 第2回 会員交流研修会

北4東6周辺地区第一種市街地再開発事業 現場見学会 [2018年10月11日]

平成30年10月11日(木)、北4東6周辺地区第一種市街地再開発事業の現場見学会が開催されました。

事業は3つの地区に分かれており、



地区ごとの完成イメージ、具体的な施工方法等について説明をしていただいた後、現在施工中の第一工区で建設中のツインタワー高層マンションへ移動しました。



まずは作業用エレベーターで14階まで上り、角部屋のバルコニーから施行中の中央体育館やエネルギーセンター、第二工区についての説明をいただきました。下の階へ降りながら徐々に完成していく部屋を見つつ、1階まで降りた所でマンション2棟をつなぐ共用棟の説明があり、その後中央体育館へと移動しました。

中央体育館では内部を一周しながらアリーナ、アーチェリー室、ボクシング室など、スポーツ毎の部屋を見学しました。



現場見学は、普段見ることのできない施工の様子や現場の方の話を聞くことができ、貴重な体験となりました。第二工区でも見学の機会があれば、是非参加したいと思います。

レポート：(株)シン技術コンサル 技術第3部
鹿野 悦史・船橋さと美

平成30年度 第3回 会員交流研修会

さっぽろ創世スクエア視察会 [2018年11月8日]

平成30年11月8(木)、さっぽろ創世スクエアにおいて視察会が開催されました。

さっぽろ創世スクエアは、都市再開発の一環として、札幌市が平成26年2月に「札幌圏都市計画第一種市街地再開発事業(札幌創世1.1.1区北1西1地区)」を決定し告示を行い、同年5月に事業計画が決定、同年6月に再開発組合を設立しました。

再開発事業は、「札幌創世1.1.1区北1西1地区第一種市街地再開発事業」として札幌創世1.1.1区北1西1地区市街地再開発組合が中心となり整備を行いました。

施設は大きく分けて高層棟、低層棟の2棟からなり、公共施設となる、札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、図書館と、民間施設となるオフィス事務所、放送局、地下駐車場、地域冷暖房プラントを備えている大規模複合施設となります。



視察会は、まず8F 階会議室において視察会に関する注意事項等の説明をいただき屋上へと移動しました。屋上に上り、遮るもののない景色に見とれておりましたところ、遥か北側に石狩湾を望むことができました。この日、生憎の雨で安全上の配慮からヘリポートに上ることは残念ながらできませんでした。

次に、エレベーターで25階から地下4階のDHC 施設(District Heating & Cooling)の視察へと移動しました。施設はまだフル稼働していないとのことでしたが、様々な機械が稼働していました。

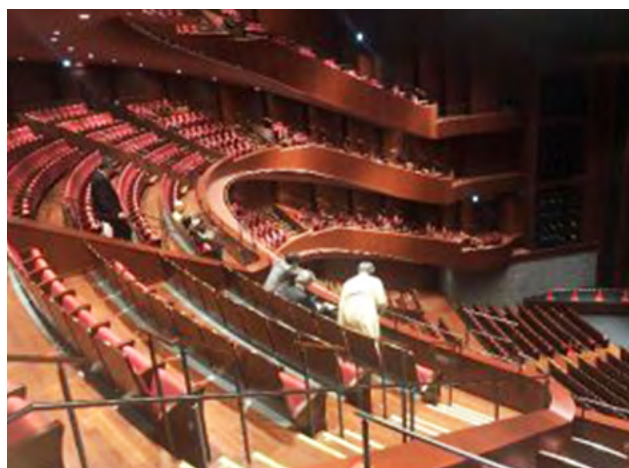
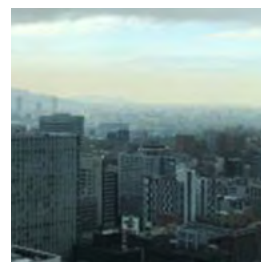
地域冷暖房施設の特徴として、環境配慮や低炭素まちづくりに貢献するために、天然ガスを使用した発電、発電により排出される熱を利用した温水、自然エネルギーを利用した冷水で冷暖房をビルへ供給しているとの

説明に、皆聞き入っていました。

次に、北海道テレビ放送の視察に移動し、テレビスタジオの見学を行いました。今回、HTB様のご厚意で、特別に放送前の「イチモニ」・「イチオシ」のスタジオ見学をすることができました。

最後に、札幌市民交流プラザへ移動し札幌文化芸術劇場「hitaru」の視察をしました。劇場内へ移動後、説明をいただきながら劇場内の視察しましたが、劇場の広さや、上階席の高さに参加者は圧倒され、特に3階席へ移動し舞台を見下ろしたときの視界に皆さんは驚いておりました。

控室・練習室の見学の後、舞台袖へ案内され道内初の多面舞台を視察しました。



長時間の視察を終え参加者は建物の大きさや、新しい取り組みについて理解を深めていたようです。

レポート： 会員交流研修部会員
(株)セコム(株)北海道本部 中瀬 浩貴

平成31年 新年交礼会

中村屋旅館 [2019年2月1日]

平成31年2月1日(金)中村屋旅館にて、一般社団法人北海道まちづくり協議会の平成31年新年交礼会を開催いたしました。

当日は、会員ほか総勢53名の皆様にご参加いただき、賑やかに交流することができました。

始めに、当協議会の能戸会長から、新年のご挨拶がありました。

そのなかで、会員数が100団体を目前にしていることや、協議会としてのまちづくりに対する思いとともに、多様な会員相互の交流の場を広げる企画や事業に取り組む必要性を改めて認識されていることなどについてお話がありました。

続く乾杯のご発声は、当協議会の理事(一財)日本不動産研究所 遠藤北海道支社長氏から頂戴し、今後 道内のまちづくりに対して当協議会の更なる貢献に期待している旨のお話があり身の引き締まる思いをいたしました。

また、会の途中には、今年度新たに入会された新会員の中から、(株)大京北海道支店長の蔭平様よりスピーチをいただきました。

普段は仕事上での接点が少ない会員の方々も、新年交礼会のなかで打ち解けあい、新たな交流が生まれたように見え、笑いの絶えない、大変楽しい会となりました。

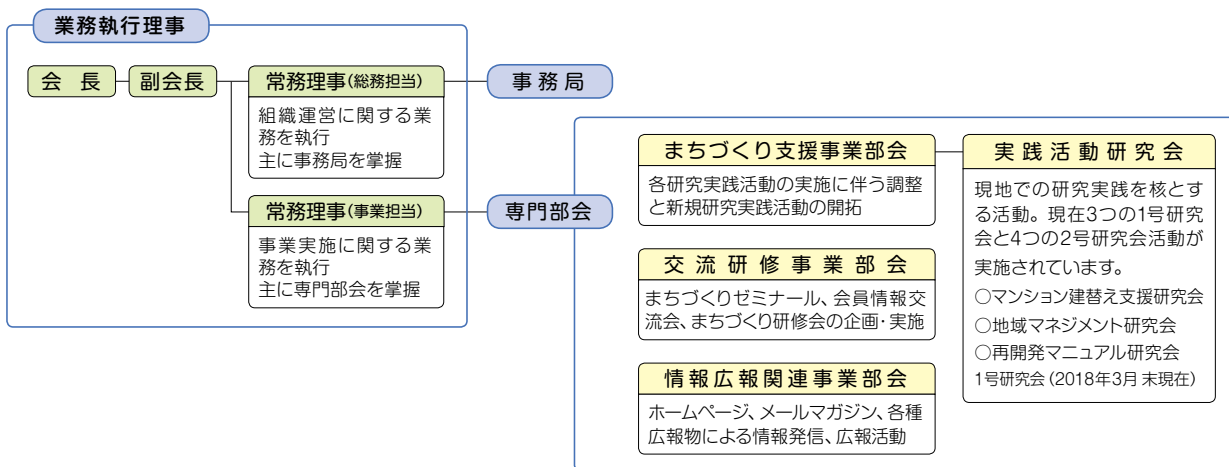


和やかな会は岡本副会長の中締めにより、閉会となりました。



レポート：セントラルリーシングシステム(株) 北 訓久

■ 組 織 執行理事を中心に事業を推進し、会員の皆さまに事業部会や研究会活動へのご参画を募っております。



役員

特別顧問	大石 章 夫	有限会社大石 R 計画 代表取締役
顧問	森 哲 子	株式会社クオリアット 代表取締役
顧問	大 場 眞 一	株式会社シグマ都市コンサルタント 代表取締役
相談役	濱 谷 雅 弘	北海道科学大学 未来デザイン学部人間社会学科 教授
相談役	吉 岡 宏 高	札幌国際大学 観光学部国際観光学科 教授
会 長	能 戸 裕 之	有限会社ジョブコム 代表取締役
副 会 長	岡 本 浩 一	北海学園大学工学部 建築学科 教授
常務理事 (事業担当)	高 森 篤 志	株式会社ソフトスケープ 代表取締役
常 務 理 事 (事業担当)	川 瀬 浩	株式会社豊多 総合計画部 まちづくり推進室長
常 務 理 事 (総務担当/事務局長兼務)	山 口 重 則	YAM 建築計画 主宰
常 務 理 事 (総務担当)	武 井 秀 爾	武井計画 代表
理 事	遠 藤 公 正	一般財団法人日本不動産研究所北海道支社 支社長
理 事	岩 崎 秀 樹	株式会社ドーコン 取締役執行役員 都市・地域事業本部長
理 事	岩 田 徳 夫	岩田地崎建設株式会社 取締役専務執行役員
理 事	渡 辺 淳	伊藤組土建株式会社 執行役員 営業本部 副本部長
監 事	横 山 幹 人	株式会社北海道鑑定 専務取締役

事業部会長

まちづくり支援事業部会	中 山 祐 二	株式会社シン技術コンサル 技術第3部 副技師長
交流研修事業部会	内 山 靖 久	岩田地崎建設株式会社 第二営業部 部長
情報広報関連事業部会	押 野 和 也	日本データーサービス株式会社 企画部 課長

事業内容

(1) まちづくり支援事業	各分野に関する 調査研究、支援、提言	◎地域再生、コミュニティの形成・再生
		◎まちの産業再生・活性化、まちマネジメント
		◎多様な分野との連携をいかしたまちづくり
		◎再開発やマンション建替え事業
	◎実践活動研究会 ◎受託支援事業 ◎まちづくり支援相談	
(2) 交流研修事業	◎まちづくりゼミナール ◎会員情報交流会 ◎まちづくり研修会 等の実施	
(3) 情報広報関連事業	◎ホームページ、メールマガジン等による情報発信・広報	
(4) 環境への取り組み	地域の環境保全に貢献することを目的に、受託事業費の1%程度を活用し、環境や自然保全などに取り組む公益的団体等に寄付、支援等を実施	

【法人正会員】

	会員名	指定代表者
1	株式会社アークデザイン	代表取締役 加賀谷 均
2	株式会社アーレックス	代表取締役 林 秀樹
3	アルファコート株式会社	代表取締役 川村 祐二
4	伊藤組土建株式会社	執行役員 営業本部 副本部長 渡辺 淳
5	岩田地崎建設株式会社	取締役専務執行役員 岩田 徳夫
6	有限会社大石 R 計画	代表取締役 大石 章夫
7	株式会社Kiina design	代表取締役 角田 知子
8	株式会社クオリアット	代表取締役 森 哲子
9	札幌齊藤木材株式会社	代表取締役 高橋 晃裕
10	札幌通運株式会社	代表取締役 片岸 俊幸
11	株式会社シー・イー・サービス	代表取締役社長 小室 裕一
12	株式会社シグマ都市コンサルタント	代表取締役 大場 眞一
13	清水建設株式会社北海道支店	執行役員北海道支店長 中川 収
14	有限会社ジョブコム	代表取締役 能戸 裕之
15	株式会社シン技術コンサル	代表取締役 志村 一夫
16	株式会社ズコーシャ	執行役員札幌支社長 明石 憲宗
17	有限会社ステージ	代表取締役 北川 好和
18	セコム株式会社	札幌統轄支社長 本塚 直人
19	株式会社セダー	代表取締役 東海林 大樹
20	セントラルリーシングシステム株式会社	代表取締役社長 安達 隆好
21	株式会社ソフトスケープ	代表取締役 高森 篤志
22	株式会社大京北海道支店	北海道支店長 蔭平 良昭
23	大成建設株式会社	札幌支店 開発部長 中村 清一
24	タイムズ 24 株式会社	北海道支店長 鈴木 幾也
25	株式会社ドーコン	都市・地域事業本部 取締役常務執行役員 岩崎 秀樹
26	株式会社東京ソイルリサーチ札幌支店	技術調査課長 大高 幸雄
27	東京美装北海道株式会社	代表取締役社長 小野 宏道
28	株式会社都市総合鑑定	代表取締役 川尻 雅裕
29	株式会社日本設計	札幌支社長 目黒 裕史
30	日本データーサービス株式会社	企画部 次長 山下 昌彦
31	一般財団法人日本不動産研究所北海道支社	北海道支社長 遠藤 公正
32	一般社団法人日本メインストリートセンター	副代表理事 内藤 英治
33	株式会社バンテック	代表取締役社長 佐藤 秀史
34	株式会社フージャースコーポレーション	北海道支店長 野口 朋之
35	株式会社フジタ札幌支店	営業所長 廣川 雅人
36	株式会社ブラッツ	辻井 順
37	株式会社豊多	総合計画部 まちづくり推進室長 川瀬 浩
38	北海道印刷企画株式会社	代表取締役社長 中村 宣隆
39	北海道ガス株式会社	執行役員エネルギー営業部長 山本 一夫
40	株式会社北海道鑑定	専務取締役 横山 幹人
41	街制作室株式会社	代表取締役 国分 裕正
42	丸彦渡辺建設株式会社	代表取締役社長 藤城 英樹
43	明和地所株式会社	代表取締役 原田 英明
44	株式会社宮川建設	代表取締役 入江 秀美
45	株式会社宮坂振興社	代表取締役 宮坂 美恵子
46	株式会社山下設計 北海道支社	常務執行役員 東日本統括 北海道支社長 秋葉 公太
47	有限会社ワイズデザイン アンド マネージメンツ	代表取締役 坂本 行宏
48	和光技研株式会社	技術本部 建築補償測量グループリーダー 寺内 知生

【個人正会員】

	会 員 名
税理士等	1 司法書士・行政書士中嶋成美事務所 中嶋 成美
	2 中村和雄税理士事務所 中村 和雄
	3 有限会社ニシダ測量 西田 政道
	4 札幌英和法律事務所 弁護士 田中 康道

個人事業主	5 YAM 建築計画 主宰 山口 重則
	6 グラスハート・デザインズ 主宰 小林 道郎
	7 武井計画 代表 武井秀爾
	8 アシスト六郎 代表 五十嵐 憲一

	会 員 名	会 員 名
一 般	9 一戸 勝巳	20 中野 孝志
	10 及川 哲也	21 中村 清司
	11 岡本 浩一	22 西間 敏幸
	12 葛西 政一	23 濱谷 雅弘
	13 片岡 道宣	24 深澤 照一
	14 加納 隆一	25 藤山 三冬
	15 後藤 健夫	26 本間 寿幸
	16 佐藤 市郎	27 松井 泰友
	17 須藤 公之	28 吉岡 宏高
	18 堂 善之	29 吉村 廣
	19 富山 哲也	

【賛助会員】

	会 員 名	代 表 者
1	恵み野商店会	会長 小笠原 剛
2	まちづくり会社 小樽駅前ビル株式会社	代表取締役 山本 忠広

【特別会員】

会 員 名	会 員 名	会 員 名	会 員 名
1 岩 見 沢 市	7 訓 子 府 町	13 苫 小 牧 市	19 紋 別 市
2 恵 庭 市	8 士 幌 町	14 苫 前 町	20 利 尻 町
3 雄 武 町	9 せ た な 町	15 二 セ コ 町	21 稚 内 市
4 音 更 町	10 滝 川 市	16 登 別 市	
5 帯 広 市	11 千 歳 市	17 函 館 市	
6 俱 知 安 町	12 当 別 町	18 東 川 町	

2018 年度末現在の会員数								合計
法人正会員	48	個人正会員	29	賛助会員	2	特別会員	21	100



KITAMACHI

一般社団法人 北海道まちづくり協議会

2018年度 活動報告書

〔発行〕

一般社団法人 北海道まちづくり協議会

札幌市中央区北3条西7丁目-1 緑苑ビル2階

TEL.011-232-0926 FAX.011-222-5697

Email : info-ad@kitamachi.org

●お問い合わせ等は Eメールでお願いします